

シーズン移行意見交換会議事録

2023年7月8日(土) 15:00-17:00

出席者：株式会社モンテディオ山形

代表取締役社長 相田 健太郎

運営部部长 結城 伸之介

モンテディオ山形サポーター 15名

議事録は、以下のルールに基づいて加筆や添削をしております。

- ① 本来の意図から逸脱したりする可能性のある部分は割愛いたしました。
- ② 特定の個人、選手、団体に関わる内容は先方にご迷惑になる可能性がある部分は、割愛いたしました。
- ③ 重複する内容やわかりづらい表現など編集時に加筆いたしました。

質疑応答

・参加者 1

第6回理事会会議録を見た結果、移行がほぼ確定している印象を受けました。降雪地域に関しては、少人数なので移行しても問題ないように思えました。現在、モンテディオ山形の試合はアウェイが続いており、選手やサポーターにとって負担となっていると感じています。議事録には、移行後も6連続アウェイや7連続アウェイが想定されていることが記載されています。

しかし、降雪地域以外ではホーム3連続の予定はないようです。これは不公平感を生み、選手にさらなる負担をかけることとなります。議事録にあったので、公平性が求められるのは理解できます。この問題にはどのような改善策があるのでしょうか。

また、ホームとアウェイが交互に開催されていると思いますが、メディアでは頻繁に取り上げられます。しかし、最初と最後の試合は特に年末にアウェイが続くのです。地元で開催しない場合、私のような人間は雨や雪でも行くことができますが、一般の人にとってはまれに行ってみる程度だと思います。そうした場合、ホーム戦ではカラー写真で新聞に掲載されますが、アウェイ戦ではモノクロで小さい写真になります。一般の人には目に留まらないため、県民の熱が冷める可能性があります。そこはどう考えておりますか。

相田：チームの考え方として、7試合連続のアウェイ試合については、年内に3試合、ウィンターブレイクを挟み年明け4試合のようなシミュレーションとなります。ウィンターブレイクで途切れることで、7連続の試合イメージは実際には選手たちにはないです。

ウィンターブレイク前に3試合がアウェイであっても問題はありません。12月のこの期間に試合が無くオフとならないことで、トレーニングやキャンプを行う目的も明確になり、チームにとっては良い方向になると感じています。

またウィンターブレイク明けのアウェイについては我々からお願いして、4試合にしてもらって

ます。これは雪の心配があるためですが、現在毎年行われていることです。また、ホームが続くタイミングもあると考えられることでチームは有利な点もあるのではと感じています。

ただ、今のお話しで運営としては全く違う視点を持つことも感じております。

・参加者 2

私は具体的な選手やクラブのことに詳しくはありませんが、サポーターやファンの感情についてお話しします。1月のキックオフイベントからキャンプまで選手に会えないのは寂しいです。そして、2月以降もメディアで選手の顔を見ることができず、他の場所で選手を見ることはできるけれども、少し寂しい気持ちです。もう少し地元で顔が見えるようにしてほしいという思いがあります。現状が当たり前としても、その気持ちが無視されているように感じます。

相田: 万が一ウィンターブレイクがある場合、他のクラブもウィンターブレイク明けにどのように盛り上げるのか気になるとのことです。降雪地域のクラブも同じような状況ですよね。最初にキャンプに行く前に集まって、みんなで送り出すことが重要だと述べています。ただし、1月の頭からキャンプに行くことは基本的にはないです。

実際に試してみないとわからない部分もあります。開幕が8月の第1週だとすると、1月か2月、または中断明けに何かイベントを行うべきだと思います。そうすると、さまざまな空白を活用する必要がありますと感じます。

他のキャンプでお世話になっている地域への嫉妬については、あまり知らなかった部分でしたので、ありがとうございます。理解しました。

・参加者 3

1つ目の懸念点は以下の通りです。ファンやサポーターはこういった場で懇切丁寧な説明を受け、メリットやデメリットを理解することができました。しかし、情報を得ていない一般の人々に対して、Jリーグが秋春制への移行という外的環境の変化を最初に話し出しても、降雪地域の人々からするとACLや雪の問題とは関係ないといった議論が先行するのは避けられないでしょう。

つまり、チームとして一般のファンやサポーターに対して、この変化によってどのようなメリットがあるのかを説明する必要があります。説明の仕方を誤ると、ますます混乱が生じる可能性があります。私自身は特定の立場ではありませんが、チームの説明方法が間違っていた場合、例えば「ACLを目指すために必要だから」といった論法で説明すると、後になって「うちのチームは関係ない」「J3のチームだから」「雪国のチームだから」と思われる可能性があるかと心配しています。つまり、説明の仕方が重要だと考えていますがいかがでしょうか。

2つ目の懸念点は、ウィンターブレイクの際に練習場の確保に関する問題が生じることです。特に雪国のチームは長期間にわたって負担を強いられ、その結果どれくらいの費用がかかるのかが

気になります。雪の降らない地域のチームにはこのような費用が発生しないため、費用面での不公平が生じる可能性があります。Jリーグが補助金を提供するなどの形で対応することは考えられますが、この点については疑問が残ります。

3つ目の懸念点は、AC長野パルセイロレディースの話聞いた際に、決算時期の変更に関する問題があることが指摘されました。お金が入る部分と出る部分が関係しています。具体的には、スポンサーやチケット販売などの収入がどのようになるか、決算時期の変更によって支障がないのかが心配しています。

相田：財務に関する課題について、収入と支出のコントロールが重要だと考えています。具体的には、決算時期の調整や新しい会計期の処理方法が課題となっています。この点について、Bリーグのように他のスポーツリーグでは対応が進んでいるようですが、スポンサーやチケット販売などの収入に関しては他のクラブと大きな差があるわけではないと考えています。ただし、どこで期を切って新しい期を始めるかについては、我々自身がしっかり考える必要があります。

また、特定のクラブは経営が困難であり、時期によって収入が得られることで成り立っている場合もあるため、各クラブが課題を抱えていると思います。私は個人的な意見ですが、費用面の不公平性については、それを受け入れるのはしょうがないことだと思っています。また、Jリーグに参加する以上、その問題に対処する必要があると考えています。

配分金についても、年々減少傾向にあります。私たちは経営を配分金に頼らず、実際の売り上げから資金を捻出する方針を主としています。配分金はボーナスのようなものであり、多ければ使い道を決め、不足していれば補う方法を考えるべきだと思っています。保証や援助を受けることは確実な約束ではないため、適切な準備を行う必要があります。どちらにせよ、きちんと準備すればプラスになっていくこともあるのだと考えています。

・参加者 4

議論の中で、いくつかのポイントが挙げられました。まず、選手の意見や感想を聞きたいという点です。また、2月に試合を行わなければならない可能性があることを考えると、代替日程をどのように設定するかが重要です。特に、水曜日に空きがあるかどうかの問題となります。

さらに、ミッドウィークにACLや国際Aマッチデー、ワールドカップ予選などが含まれるため、試合が組めない状況が生じます。特に5月に代替日程を設定すると、シーズン終盤や優勝争いに影響を与える可能性があります。クライマックスが同時に行われると、負荷の変動が大きくなります。また、2月の中止試合の代替日程の調整も重要です。クラブだけではなく、危機管理の観点から、イレギュラーな事態が発生した場合にどのように対処するかを明確にする必要があります。

これらの点について、さらなる議論が進み、その中で明らかにされていく必要があると考えていますがいかがでしょうか。

相田：降雪時期の移動に対する懸念があります。また、チーム数が変わることで試合数が減るため、ルヴァンカップがトーナメント形式になることや、連戦による負荷増加についても意見があります。さらに、遠征時の移動の負担、選手の移籍時期のずれについても問題提起されています。また、ヨーロッパとのウィンドウのずれによる影響や、ブラジル人選手の移籍に関する考慮もあります。これらの課題や意見は分科会などで議論されており、移籍や外国人枠、選手登録人数なども含めて検討されている状況だと認識しています。

・参加者 5

ウィンターブレイクの長さや雪国クラブの日程に関する懸念があります。現在の案ではウィンターブレイクが6~8週間確保される予定ですが、将来的には日程が削られてしまい、実際には4週間ほどしかウィンターブレイクがない可能性があるのではないかと危惧しています。雪国クラブとしては、ウィンターブレイクの担保が運営計画を立てやすくするために重要であり、雪の降る時期の日程についても考慮する必要があると考えています。

また、練習場の確保やキャンプの費用に関する問題もあると思っています。シーズン移行によって不利益が生じる可能性があり、特に雪国クラブにとっては財政的な面でも重要な問題です。そのため、リーグ間での確約や取り決めをしっかりと行うことが必要なのではないのでしょうか。

個人的な意見として、クラブとして明確な立場を表明し、シーズン移行に関する問題について慎重に検討するべきだと思います。

相田：ウィンターブレイクの期間については、ルールとして明確に決める必要があると思います。過去に2期制度が導入されました。私はむしろ、ウィンターブレイクが短くなるということよりも、ウィンターブレイク期間が空きすぎて異なる別のコンペティションが生まれるように見えるようなことや、将来いっそ2期制にするというような方向に行くような事は避けたいことだと思います。

・参加者 6

クラブの情報発信方法をもっとシンプルかつわかりやすくしてほしいという要望があります。以前、サポーターの間で混乱があったことがありました。その際、雪の中で試合が行われるのか、スタジアムに行けないのか、庄内からのアクセスができないのかといった反応が多くありました。実際の説明会では、シーズンと山形での試合日程は変わらないことが説明されていたにもかかわらず、理解していない人が多いことがわかりました。

クラブとしては、AGLのスケジュール設定やJリーグへのメリットなど、重要な情報を山形のサポーターに対してもっと広く伝えるべきです。まず、山形での試合は3月中旬から11月末まで行われることを明確に知らせるべきです。また、山形での新チームの活動やキャンプの情報を積極的に発信し、メディアも全員が取材に参加し、広報活動を行うべきです。例えば、山形でのキャンプやトレーニングマッチの開催情報を庄内の人々にも呼びかけ、参加してもらうなど、ポジティブなイ

ベントを増やすことも重要です。

山形のクラブがどのように変わっていくのかをわかりやすく、ポジティブに発信していくべきです。情報の伝達方法と内容について考え、推進していく姿勢を示すことが必要だと思っています。

相田:おっしゃる通りです。ホームゲームの日程が現行と同じく始まることや、雪の時期に試合が行われるという認識は違うことを明確に伝える必要があります。

各クラブに専用の大きなカレンダーを作成してもらうことをJリーグに提案しています。チェアマンも北海道のクラブの経験から、何が変わるのかをもっとわかりやすくしなければならないと理解していました。変わる要素と変わらない要素を明確にすることは、現時点では理解しづらいため、各クラブが個別に対応するのではなく、Jリーグからの説明が必要だと考えています。

・参加者 7

私がお伝えしたいことは、2月の試合でのデメリットです。この時期は飛行機や新幹線の運行が止まることもあり、選手が前泊できずに後泊で試合に臨むことになります。また、2月中は雪がピークとなり、サポーターは除雪に追われます。例えば、私の家では2月下旬になると屋根に登って除雪しなければ家が潰れてしまうため、このピーク時に試合が行われると、普通の人でも週末に屋根の除雪に追われることになります。

そのため、アウェイゲームにはほとんど参加できません。私がサラリーマンの頃、2月中は週休2日で、完全に除雪と外出を控える期間でした。会社も休みだったので、試合が組まれると行きたいと思っても行けないというサポーターが増えます。また、熱心なサポーターは無理して試合に行きますが、選手が暑さで命の危険を感じることもあります。

私はサポーターが雪の中で命の危険を感じることで、悲惨な事件が起きる可能性があると思っています。例えば、吹雪に巻き込まれて亡くなる事件や北陸道の渋滞などが毎年起きています。選手バスやサポーターが巻き込まれるリスクもあるため、移動を避ける対策をJリーグが考慮してほしいです。ただし、熱心なサポーターは無理して試合に行きますし、夜中でも山越えて福島から新幹線に乗るといった考えもできると思います。危険は危険なので、Jリーグにはそういったリスクを考慮してほしいと思います。

また、少し話は逸れますが、山形のスタジアムではみんなで除雪し、一体感を感じることができる素晴らしい方法があります。スタジアムシーズンが始まる前に、屋根付きの座席を導入するなど、除雪の手間を省く方法があれば良いのではないのでしょうか。このような提案をJリーグに行うと良いと思います。

相田:ありがとうございます。それは活用状況も含め、調べてみます。

・参加者 8

移行に関してハード面で考えていることがあります。新しいスタジアムを建設し、練習場も新しく作る場合、道路などのライフラインについてもJリーグからクラブへの補助金を受け取ることができないのかなと考えています。例えば、冬のキャンプでの練習ができない場合もあります。大雪で選手が移動できない状況が発生することもあります。その際、選手を周りで集めてバスで迎えに行くなどの移動方法が考えられます。ライフラインやスタジアム周辺も整備され、選手が住む環境も整えられると良いと思います。

また、会議が始まる前に考えていたこととして、ウィンターブレイクの後に連戦が続く状況についても触れています。アウェイ連戦では多くの準備が必要ですが、チームとしてはこれまでほとんど勝利できていない状況です。このような場合、チームの負担を減らすための施策をJリーグやクラブが考えてくれると嬉しいです。

相田：移動手段や施設の面での準備について理解しました。キャンプの長期間によるストレスや家族との離れ離れについても考慮すべきだと思います。個人的な意見として、休みの日に選手を帰宅させるべきだと提案していますが、現場からは移動の面も含め少々無駄ではという意見もあります。なので、一部の選手は家族をオフに合わせてキャンプ地に呼ぶなどしています。

また、コロナ禍での1人1部屋の環境では選手同士のコミュニケーションが取りづらくなることがありました。新加入選手と既存選手のコミュニケーション不足ややり取りにおける小さな問題もありました。これはクラブの問題であり、Jリーグが改善策を提案することではないと考えています。ちなみに今年のシーズン開幕のタイミングで感じた印象は、選手たちが例年よりも前向きな雰囲気でした。初戦はクリアできたと考えていますが、その後の試合は課題が残りました。これについてはおそらく他の降雪地域のクラブも悩みながらやっているとと思いますが、根本的な問題を解決することはなかなか難しいですが、考えながら進める必要があると感じています。

・参加者 9

今回の問題について、サッカー以外の視点で考えると、雪国におけるハンディキャップが存在していることが皆の意識にあると感じます。相田社長が言及したように、何も変わらないししょうがないかもしれないという考えが伝わることで、雪国独特の状況に諦めを感じることもあるかもしれませんが、私は何も諦めず、Jリーグに戦いを求める必要はないと思っています。ただ、何か少しでも変わる可能性や希望があると、サッカーに詳しくない人でも雪国のスポーツに対して希望を持てるのではないかと考えているのですがいかがでしょうか。

相田：ありがとうございます。ネガティブな発言に聞こえてしまっていたら、大変申し訳なかったです。おっしゃる通り、ただでは起き上がりませんっていう基本的な考えがあります。

・参加者 10

私はシーズン移行に対して楽しみにしています。先ほどおっしゃった通り、今と変わらない感じがして、試合が普通に始まるのが嬉しいです。また、新しいスタジアムが実現するというので、そこでは選手の練習や室内での活動が可能になると思います。ウインターシーズンやシーズンオフの練習にも活用できるので、スタジアムについても興味があり、今回この会に参加しました。スタジアムについてもお聞かせいただけないでしょうか。

相田：申し訳ありませんが、まだスタジアムに関する具体的な話はできません。ただ、コロナや原油高などの要因により、予想よりも建設費用が増加していることは事実です。屋根の設置についても検討していますが、その費用が予想よりも大幅に上昇しているため、現在話し合いをしております。

私がアメリカで視察した際に訪れたミネソタ州では、2月中旬から雪が降る地域で、アリアンツスタジアムというオープンエアのスタジアムがありました。スタンドは屋根で覆われており、雪はお湯で溶かされる仕組みがあります。アメリカでも2月中旬にホームゲームが行われることが普通です。屋根を設置しない理由については、屋根の費用を他の取り組みに投資する方が優先されるからだと説明されました。現時点では明確な答えはありませんが、選手が最善の条件でプレーできることは重要です。ただし、芝生の管理なども考慮する必要があります。

また、スタジアムは試合のためだけでなく、他のフィールドスポーツ(例えばラグビー)にも利用される可能性があるため、年間の稼働日数が限られていることも認識しています。そのため、スタジアム建設に多額の投資をするには、その他の日数の活用計画が必要です。スタジアムは街全体の形成に関わる事業であり、単に建設するだけではないと考えています。

現在、最終調整を行っており、より使いやすく、雪国に適したスタジアムを実現するために努力しています。もう少しお待ちいただければ幸いです。

・参加者 11

Jリーグのシーズン移行に関して、冬に試合を行うことについては、特に年配の人々には固定観念があり、その情報が十分に伝わっていないと感じます。したがって、モンテディオ山形や報道機関から、視覚的に分かりやすい資料や情報を提供することが重要だと考えています。これにより、山形でのシーズン開催時期がサッカーを行う一般的な時期と変わらないことが伝わり、理解しやすくなると思います。

また、スケジュールについては、過去の経験から考えると、シーズン終了は11月頃であり、その後山形でプレーオフや最終戦の機会があることが多いです。したがって、寒い季節よりも暖かい6月や7月にデーゲームを行う方が魅力的であり、多くの人々が来場する可能性が高いです。子

供がいるため、6月や7月には楽しいイベントも開催されるため、デーゲームは非常に魅力的だと考えています。

また、シーズン移行により水曜日の試合が増えると、ホーム側でも子供や学生が参加できない機会が増える可能性があります。これについては、マーケティング的な観点から考えると、キャンプの費用を上回るほどの負担になる可能性があります。したがって、この点についても詳細な情報を知りたいと思っています。

相田：水曜日の試合に関して、実際には増える可能性があると思っています。ただ、今示されている内容を見る限り現時点では今とほとんど変わらず、リーグ戦のスケジュールについても特に大きな変更がない印象です。ただし、来年からは全クラブ対象になるルヴァンカップが水曜日に組まれるのでしょうか。これについては、頑張って興行の準備をしたものが試されたり、活かされる良い機会ではないかと思っています。

6月や7月については、他の時期よりも天候が良くないこともあり、与えられたマーケット環境の中で何ができるかを考えながら苦労して興行の方向性を考えています。具体的な時期よりも、「何をやるか」に重点を置くべきだと思います。

Jリーグにはいつまでに何を決めるのかを明確にしてもらわないと、突然「来年からシーズン移して試合を行う」と言われてもなかなか準備ができません。

また、例えば建物を造る場合、設計や申請だけで約1年はかかり、建設にさらに1~2年かかることを考えなくてははいけません。

おっしゃっていただいたように、大人だけでなくお子様が楽しむ場を作ることはクラブとしても非常に重要です。なので、これまでも我々は家族や子供たちをターゲットにした取り組みを行ってきました。しかし、突発的な変更が起きることだけは避けたいと思っています。できるだけ準備期間を確保し、シーズンに臨みたいと考えています。貴重なご意見、ありがとうございました。

・参加者 12

アウェイ7連戦のスケジュールについては、サポーターとしてモチベーションを維持するのが難しいとの懸念があります。また、連戦による負担や応援の分担なども考慮しなければならないと感じています。新しいスタジアムが完成すれば、例えばアウェイ連戦の試合を減らして開催するなどのこともできるかもしれません。山形の天候の変化も考慮しながら、連戦を避けてホームで試合を行う環境を整えることが望ましいです。公共交通機関の利用やメリットについても検討してもらいたいとの意見も私の周りではあります。

また、ルヴァンカップなどによりミッドウィークの試合が増えることで、選手の報酬や人員の限定性が懸念されます。特に選手層の厚さに影響が出る可能性があるため、選手の人員を増やすなどの対策が求められると考えます。大卒や高卒の選手の特別指定や補強についても、次シーズンに向けた計画を立てる際に検討してもらえれば、Jリーグ全体の価値向上につながると思っています。

ます。

相田：現在の契約制度では、A 契約は最大 25 人までと制限されていますが、もしかするとこの制度が廃止される可能性もあります。また、そうなると競争が激化しマネーゲームが起こる事になる懸念も考えられるかもしれません。また、ミッドウィークの試合増加による負荷や怪我の問題も考慮しなければなりません。クラブや Jリーグ全体として、この点を適切に考慮し、適切な対策を講じる必要があると思われま

・参加者 13

一般の方々が知りたいのは、Jリーグの観戦環境が秋春制に変わることによってどのように変化するかということです。そのため、試合自体は変わらないことを明確に説明していただくことで、安心感を持つことができるでしょう。また、雪の中での試合観戦が必要なのかという懸念もあるため、その点についての説明もお願いしたいと思っています。

相田：ありがとうございます。もう、前述の皆さんのお話あった通りだと思いますし、私もそう思います。ちゃんとした説明をするように Jリーグにもお伝えいたします。

・参加者 14

Jリーグの情報は一般の人々にはほとんど届いていない。理事会の発言は Jリーグの公式ウェブサイトの隅っこに掲載される程度で、多くの人には目にする機会がないと思っています。一般の人々が知りたいのは、Jリーグの試合観戦環境がどのように変わるのかという点です。試合自体は変わらないことを明確に伝えることが重要だと考えます。

シーズン移行については、ACL 日程への合わせ方や選手のパフォーマンスに関する懸念があると思います。特に、8 月の暑い時期に開幕する提案には理解ができない点があります。もしシーズン移行が行われる場合、選手の練習環境も考慮されるべきである。適切な練習場を提供し、Jリーグの根本理念である地域のスポーツの活性化を支援する必要があると思います。

ACL や天皇杯の出場枠についても検討すべきではないでしょうか。折衷案やクラブのレベルに応じた措置を取ることで、さらなる Jリーグの発展が期待できるのではないかと思います。

話し合いの過程や意思決定の背景を明確にすることが重要だと思います。ファンや選手の意見を反映させ、広報活動も十分に行い、情報共有を図るべきだと考えます。

シーズン移行が実施される場合、学校や選手の家族のスケジュールにも配慮する必要があるのではないのでしょうか。それに伴い、適切な対策やサポートを提供することが求められると思います。

Jリーグ全体として、情報共有や集まりの場を設定することが重要である。公平な意思決定を行

い、透明性のある運営を心がけるべきであると考えます。

相田:8月の日程に関しては、FIFAのルールやワールドカップの影響があり、それに合わせて調整される可能性があります。具体的な日程が明確になるまで、詳細な説明はまだされていません。サマーブレイクは興味深いが、梅雨の時期に試合を行うことには興行的な厳しさがあると感じています。

施設に関しては、冬は適切な条件を満たす施設に限られるため、考慮しなければいけない必要があると思います。

事業収入の観点で言えば、極論どの月にシーズンがあっても収益を上げる方法を考える必要があります。なので開幕が8月という事に私たちがこだわる必要はないと思っています。ただし、今回は世界で起きてる試合日程のことやシーズン全体のイメージを考慮する上で検討されていることです。その中でご指摘いただいたところへの検討は必要があると思います。

・参加者 15

Jリーグからのシーズン移行案について、メリットとデメリットが提示されました。デメリットの中には、降雪地域のクラブに対しては練習場の提供があるものの、その整備や費用は自己負担となり、また、冬季の人工芝のテントでの練習環境は選手の移籍にも影響を及ぼす可能性があります。一方、メリットの中には、他の地域のクラブにとっては冬季の屋外練習が可能な点や、シーズン移行による国際日程の調整などが挙げられました。

この移行案に対して、話し合いや妥協が必要であるという意見があります。モンテディオ山形のようなクラブは、移行案を受け入れる際にどこで妥協すべきか、それとも移行に反対すべきかを検討しなければなりません。

私としては、基本的姿勢としてはシーズン移行には反対です。なぜかというともう前述したように、メリットがないと考えるからです。それも踏まえた上で、Jリーグからの移行案を受けた上で、チームとしてどこで妥協していいところを決め踏み切るのか、それとも私たちが移行するのはこの要件を飲んでもらわない難しい等、Jリーグのシーズン移行というのは、賛成反対というのを、この段階で言うのは、難しいかもしれないですが、どこまで考えてるのかを教えてくださいたいです。

相田:私は、クラブのブランディングや選手獲得に与える悪影響を一番懸念しています。たとえば屋内施設があろうとも降雪地域ではないクラブはいつでも屋外の天然芝でできているにもかかわらず降雪地域のクラブに行くと一定期間いつも人工芝でプレーすること等、練習環境で比較して、天然芝のピッチを提供するクラブに移籍する選手が増える可能性があります。この点について、具体的な解決策はありませんが自助努力をしなければいけないことです。クラブのポジティブなブランディングが大事だと思います。

さらに、練習環境だけでなく、移動を含めた生活環境の問題も重要です。練習場の整備や改善にはコストや施設の確保が必要であり、クラブ単独では難しい課題となります。ここで、自治体や関係機関からの補助金や助成金を活用する可能性ももしかしたらあるかもしれません。

また、シーズン移行を受け入れるかどうかを判断する際には、メリットとデメリットをバランスよく考える必要があると思います。移行によるメリットを確認し、クラブとしてどこまで妥協するかを検討する必要があります。また、移行案に対して反対する立場を取るクラブももちろん存在するかもしれませんが、意見を交換しながら最終的な判断を下すべきことだと思います。

このような意見や議論を通じて、移行案に関する情報の整理や具体的な対策の検討が進められるべきです。クラブとしてのブランディングや選手獲得の観点からも、移行案の影響を最小限に抑えながら、持続的な発展を図るための戦略的な判断をすべきだと考えています。

・参加者 7

Jリーグにウィンターブレイクがサマーブレイクどっちか選べという案を上げてみてはどうですか。

相田：サマーブレイクの議論においては、具体的なスケジュールや休みの期間について議論する必要があると指摘されています。例えば、現行のシーズン中にACLを考慮して休みを取る方法や、夏に休みを設ける方法などが検討されるでしょう。ただし、サマーブレイクを導入する場合、最大で3ヶ月の休み期間になる可能性もあり、その点についても慎重に考慮する必要があります。

・参加者 4

秋春制移行に関して、選手はどういった認識なのでしょう？可能な範囲で結構ですので選手のリアルな感想を伺いたいです。

相田：選手たちは夏の試合についてはきつと感じており、命の危険や筋肉トラブルが心配されています。冬の方がプレーしやすいという意見もあります。選手たちの感想は一樣ではなく、60クラブがそれぞれの意見や過去のデータを考慮してカレンダーを作成し、選手や現場の意見も取り入れるべきだと思っています。気候変動が激しい現状では、世界のカレンダーに合わせて、変える必要はないかもしれませんが、全クラブが具体的に1年間のカレンダーに気候や環境等について意見を書くべきだと私は思います。駆け引きやバイアスがある中での議論では正しい結論が出ないため、事実に基づいた慎重な検討と選手の声を反映させる必要があると考えています。

・参加者 3

雪国クラブは、同じ意見なんですか。相田社長はその会議に出てどういう肌感ですか。

相田:部会の中でも意見をまとめている状態ではありません。それぞれが求める水準や持っている資金や環境、地域の関与など、さまざまな要素が異なるため、これらを一括りにする必要はないと考えています。現時点で具体的な反対意見や賛成意見ではありませんし、日程も明確に決まっています。フラットな状況で話し合われています。

・参加者 14

選手との距離もとかの話あったんですけど、実際仮にこれシーズン移行したとして、夏のモンテディオ山形のキャンプでホームを離れている期間ってどれぐらいになる感じでしょうか。

相田:多分 10 日ぐらいになると思います。試合がやりたくて県外出て、年間通してではなく開幕前のところになるのではないのでしょうか。

以上